

事業報告

平成30年度 教育事業

ログちゃんアドベンチャーキャンプ③

平成30年11月10日(土)～11月11日(日)

【対象】 幼児と保護者

【場所】 国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

自然を活用した、親子での運動遊びを通して、幼児の運動能力の向上と親子の絆を深め、親が子供に対して積極的に関わる子育て支援の機会を提供する。また、参加した親子同士の交流を図る。

～主催～

主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後援：伊那市・伊那市教育委員会

～活動日程～

時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
1日目	10:40～11:00 受付					開会式 アイスブレイク	昼食	入室・活動準備	アドベンチャー ハイク		休憩	こたい	入浴・夕食	キャンドル ファイヤー	絵本読み聞かせ 【園児】	就寝	
2日目	起床	こたい	朝食・荷物整理	清掃点検	～家庭でできる 運動遊び～	親子運動遊び	親子で調理に挑戦 ・ハッシュドビーフ ・バターライス ・チヨコフォンテュ		閉会式	14:20 解散							

～参加者～

13家族（大人15名、幼児13名、小学生3名 未満児1名計：32名（長野県、愛知県、埼玉県）

～活動トピックス～

活動Ⅰ 「アドベンチャーハイク」

講師：信州大学経法学部教授 古屋顯一氏

硫黄沢と西尾根を中心に屋外で活動を行った。

グループで課題に挑戦し親子や家族の絆を深めた。落ち葉の中に置いたはさみや、洗濯バサミといった人工物を見つけたり、箱の中に入れた松ぼっくりや枝、葉などの自然物に触って、同じものを自然の中から見つけたりして、五感を使って自然を感じるゲームを展開した。



活動Ⅱ キャンドルファイヤー

講師：信州大学経法学部教授 古屋顯一氏

古屋先生の指導のもとボランティアが企画運営を行った。じゃんけん列車や海賊船ゲームなど全員で体を動かすゲームをしたあと、最後は「大きなカブ」を題材にした影絵をボランティアが演じて、参加者に歌をプレゼントした。参加者は歌を聞きながら、一緒に口ずさみ、静かな雰囲気ですべての活動を振り返った。



活動Ⅲ 講義（親対象）

1. 「今、子どもの教育に必要なこと」 講師：松本短期大学名誉教授 柳澤秋孝氏
2. 「野外で使える技術実習」 講師：信州大学経法学部教授 古屋顯一氏



柳澤先生の講義では、幼児期の運動の重要性について学んだ。古屋先生の技術実習では、野外活動や生活に生かせるロープワークを学んだ。参加者は習った結び方を、繰り返し練習し、熱心に取り組んでいた。

活動Ⅲ ボランティアによる絵本の読み聞かせ（幼児対象）

第1回・2回のキャンプで絵本専門士の先生から読み聞かせを学んだボランティアが紙芝居や大型絵本を選び、読み聞かせを行った。子どもたちは絵本の世界に引き込まれ、聞き入った。



活動Ⅳ 親子運動遊び～家庭でできる運動遊び～

講師：松本短期大学名誉教授 柳澤秋孝氏

柳澤先生の指導の下、プレイホールで親子運動遊びを行った。鉄棒に見立てた棒を使って、体を持ち上げたり、親の背中をとび箱に見立て馬跳びをしたり、親子の触れ合いを通して運動の実践を行った。家でも実践したいという感想が多く聞かれた。



活動Ⅴ 親子で料理に挑戦 メニュー

「ハッシュドビーフ」「バターライス」「チョコフォンデュ」

秋の野外調理で気温が下がるため、煮込み料理や、火を囲みながら団らんを楽しめるよう上記の3つの調理を行った。幼児も子どもも包丁を使って材料を切ったり、薪を運んだりして、調理に参加し親子やグループで楽しみながら調理を行った。



～参加者の声～

- ・アドベンチャーハイクが印象に残っている。家にあるものや自然にある身近なものでこんなにも楽しめるのかと思いました。集めた落ち葉でドラゴンの絵を作るのが楽しかった。
- ・アドベンチャーハイクの崖下りは、初めての体験で子どもも達成感があったようです。親子で二日間思いっきり体を動かして楽しめました。
- ・ロープワークを実際に見て、自分でもやってみて勉強になりました。もっと時間がほしかったです。前日に学んだロープワークを野外で実際に使ってみるのもやってみたい。

～成果と課題～

- アドベンチャーハイクで落ち葉を使ってグラデーションの絵を完成させたり、野外調理で煮込み料理をするなど季節を感じる活動を行うことができた。
- 11月開催のため、第1回目。2回目に比べ幼児の月齢が高くなっている分、アドベンチャーハイクで崖を下る課題を設定したり、親子運動遊びで鉄棒を取り入れたり、発達段階に合わせて、応用的な活動を取り入れた内容とすることができた。
- 幼児期の親子運動遊びの普及のため、各回募集で3回を実施したが、複数回参加する参加者も多かった。